

地歴 問

地理歴史等

平成 25 年度 (前期日程)

注 意 事 項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 29 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	1
---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、洋数字及びアルファベットに限り、1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし、例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

地 理

I 次の文章を読んで、問題に答えなさい。

近年高まりを見せはじめている「フェアトレード(公正な貿易)」は、発展途上国で生産された農産物や手工業品のうち一定の基準を満たすものの市場での流通を促し、それによって生産者に正当な利益をもたらそうとする運動である。なかでも① コーヒー豆、カカオ豆、茶、バナナ等の一次産品は、フェアトレードの認証を受けた製品が、スイスやイギリスなどヨーロッパ諸国を中心に市場で大きなシェアを獲得するようになってきている。これらの一次産品の生産者は前世紀前半に定着した産業構造の負の遺産を象徴する存在といえるが、フェアトレードは直接的な援助を行う代わりに市場を通じた取引に一定のルールを設けることで彼らの生活を改善する仕組みである。フェアトレードに参加する生産者団体は組織運営や労働条件、生産方法などについて国際的な認証機関が定める基準をクリアした上で、④ 小売市場で競争力をもつ付加価値の高い商品を生産する努力を求められる。

問 1 表 I-1 は、下線部①に示した産品の輸出額上位国と市場におけるシェアを示している。品名ア～エと国名 A～D を答えなさい。同じ記号は同じ国を示す。解答用紙の第 1 行に品名、第 2 行に国名を記入すること。

問 2 下線部②は、具体的にはどういうことか。国の経済と生産者の置かれた状況の両面に触れながら、説明しなさい。(150 字以内)

問 3 図 I-1 は、1988 年から 2010 年までのコーヒー豆の一般市場価格とフェアトレード市場価格の推移である。ここから下線部③のルールの特徴が読み取れる。それはどのようなルールで、それによって生産者が得る利益とは何か。説明しなさい。(100 字以内)

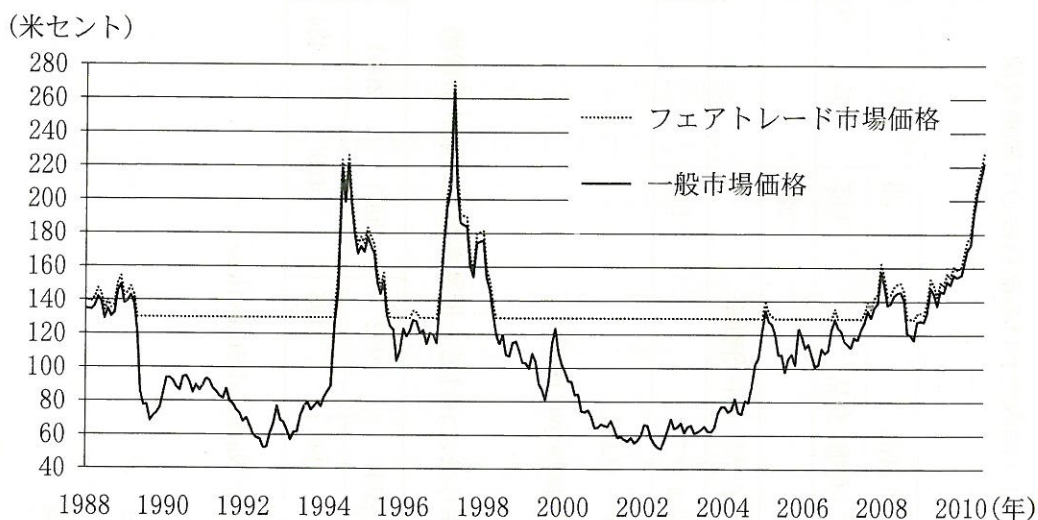
問 4 下線部④について、フェアトレード商品の付加価値は商品自体の品質だけに限らないと考えられる。表 I-2 および I-3 に示すイギリスにおける消費者行動の推移を参考に、説明しなさい。(100 字以内)

表 I-1 主な一次産品の輸出額上位国と市場におけるシェア(2008 年)

ア	%	イ	%	ウ	%	エ	%
ケニア	20.9	ブラジル	24.7	コートジボワール	28.7	D	29.3
スリランカ	16.8	A	16.7	C	17.4	コスタリカ	11.4
中国	15.8	コロンビア	9.5	B	13.9	フィリピン	10.6
インド	10.7	B	7.4	ナイジェリア	8.3	コロンビア	9.4
A	5.5	ドイツ	4.5	カメルーン	6.3	グアテマラ	7.7

(出所：FAOSTAT)

図 I-1：コーヒー豆(アラビカ種)のニューヨーク市場における 454 グラム(1 ポンド)当たりの価格の推移(単位：米セント)



(出所：International Coffee Organization)

表 I-2 イギリス国内における品目毎の年間消費額

(単位：百万英ポンド)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
フェアトレード食品	33	51	63	92	141	195	285	458	635	749	1017
オーガニック(有機)食品	605	805	910	1000	1193	1473	1737	1982	1986	1704	1527
エコ家電	229			1102	1361	1661	1824	1888	1893	1909	2068
電気またはハイブリッド自動車	4					98	96	222	282	370	846
チャリティショップ	141						224	210	299	340	350

注：空欄はデータなし

(出所：The Co-operative Bank)

表 I-3 イギリスにおける一世帯あたりの家計消費額

(単位：英ポンド/週)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
386	398	406	416	434	443	455	459	471	455	473	

(出所：Office for National Statistics)

II 以下の文章を読み、表Ⅱ－1、表Ⅱ－2を参照して、問いに答えなさい。

国際観光業は、次のような理由で第二次世界大戦後急速に成長した。第一に、飛行機を中心とする交通手段の発達。第二に、主に先進国で所得水準、生活水準^①が上昇し、余暇が増えて、一般庶民でも海外旅行に参加できるようになった。第三に、冷戦体制の終結後、国境を越えた人の移動が自由になった。観光旅行が一部のお金持ちや少数の特権的な人々のものから大衆化して、マス・ツーリズム(大衆観光)と呼ばれるようになった。

発展途上国や貧しい国では経済発展や貧困問題の解決に貢献する産業として国際観光業への期待は高い。成長産業であるし、雇用を生み出す効果も高いと言われる。鉱物資源がない国でも観光業で外貨が得られるし、農業や製造業と違って自然をそのまま利用すればよいから安上がりである。製造業は、世界市場で競争力のある製品や企業を育成しなければならず大変だ。

自然をそのまま利用すればよいとはいえ、観光業の発展にはホテルなどの施設の建設や道路の整備などが必要である。これらには資金が必要である。表Ⅱ－1と表Ⅱ－2のデータを見ると、観光業の恩恵を受けているのは、発展途上国ではない、という主張も成り立つかもしれない。^②しかし、発展途上国(貧しい国)が観光業から恩恵を受けていないと表Ⅱ－1、表Ⅱ－2のデータから結論づけることは必ずしもできない。^③国際観光収入の上位10カ国に中国が入っているし、9位のイ国は、国土の一部はヨーロッパにあるが、大部分はアジアに属する。イ国は東南アジアの仏教国である。両国とも農業の盛んな国で、最近では工業化の進展も著しい。それでも両国とも鉱物資源はほとんど産出しないから観光収入は貴重な外貨収入源であろう。

観光開発では、関連の道路や施設の開発あるいは観光客の増加で、自然が破壊されたり、遺跡の保全の障害になったりすることが心配される。そこで、自然を破壊せずに観光を行うために、1980年代になるとエコツーリズムが提唱され、国連が2002年を「国際エコツーリズム年」に指定した。日本でも2007年にエコツーリズム推進法が制定された。エコツーリズムの定義はいくつかあるが、「自然環境や歴史文化を体験し、学ぶとともに、自然環境や歴史文化の保全に責任をもつ観光」と

いったように、自然環境の保全と観光振興，地域振興を両立させようとする。入場者数を制限して、^④少人数のツアーにしたり、自然の植物などの採取がきびしく制限されたりする。しかし両立は難しいところもある。

^⑤エコツーリズムの考え方をさらに拡張して、オルタナティブ・ツーリズムとして提唱する人もいる。オルタナティブ・ツーリズムの参加者は、マス・ツーリズムでは得られない経験をしたり、社会的貢献をする。例えば、貧困と闘っている農村や都市のスラムを訪れて人々の取り組みを支援する。自然破壊や売買春といったマス・ツーリズムに伴いがちな弊害を避けるツーリズムという面もある。

最近経済発展が目覚ましい新興国の国家群として各国の頭文字を取って BRICS と呼ばれる国々があるが、BRICS の一つのオ国ではファベラと呼ばれるスラム街の貧困解消のためのツアーが有名である。BRICS のもう一つの工国でもタウンシップと呼ばれる黒人居住区のツアーが行われている。工国は、最初は BRICS には入れていなかったが、最近では BRICS に含めている。

問 1 文中と表Ⅱ-1 のア国，イ国，ウ国，工国，オ国の国名を答えなさい。解答用紙の第 1 行に書くこと。

問 2 下線部①に関して、交通手段の発達はどうのように国際観光の発達をもたらしたと考えられるか、具体的に説明しなさい。交通手段の発達によって何が変化したことによって、あるいは何が可能になったことによって国際観光客が増加したのかを述べること。(100 字以内)

問 3 下線部②に関して、表Ⅱ-1，表Ⅱ-2 から発展途上国あるいは貧しい国が国際観光業の発展の恩恵を受けていないという主張ができるとすれば、どのようなことを根拠にしていると考えられるか、説明しなさい。(50 字以内)

問 4 下線部③に関して、表Ⅱ-1，表Ⅱ-2 のデータからだけでは、発展途上国(貧しい国)が観光業から恩恵を受けてこなかったと結論づけることはできないのはなぜか、問題文中に書かれているもの以外の理由を挙げて説明しなさい。(75 字以内)

問 5 下線部④と⑤に関して、自然保護と観光振興を両立させることの難しさとしてどのようなことが考えられるか、具体的に説明しなさい。(50字以内)

問 6 イ国の東南部で国境を接する隣国も仏教国であるが、この国には1994年に世界遺産(文化遺産)に登録された有名な遺跡がある。この遺跡は2004年まで危機遺産(危機にさらされている遺産)に登録されていた。なぜ危機にさらされていたのか説明しなさい。(100字以内)

表Ⅱ-1 各国の国際観光収入 上位10カ国とBRICS 単位百万米ドル

上位10カ国(1)

国名/年	2006	2007	2008	2009	2010
1. アメリカ合衆国	132,914	148,448	170,079	149,957	165,777
2. スペイン	57,453	65,020	70,434	59,539	58,810
3. フランス	54,286	63,771	67,116	58,543	56,654
4. 中国(2)	37,132	41,126	44,130	42,632	50,154
5. ドイツ	45,538	49,332	53,398	47,452	49,133
6. イタリア	41,644	46,144	48,757	41,938	40,058
7. イギリス	43,803	48,193	46,285	38,564	40,746
8. オーストラリア	20,811	25,481	27,885	27,654	32,588
9. ア国	18,533	20,719	25,032	24,601	24,784
10. イ国	16,614	20,623	22,497	19,814	23,820

BRICS(3)

国名/年	2006	2007	2008	2009	2010
インド	8,915	11,234	12,462	11,509	14,673
ウ国	9,720	12,427	15,821	12,369	13,379
エ国	9,211	10,226	9,178	8,684	10,308
オ国	4,577	5,284	6,109	5,635	6,180

- (1) ホンコンは2010年に270億米ドルの観光収入があったが、この表には含まれていない。
 (2) ホンコン、マカオ、台湾は含まれていない。
 (3) 中国は上位10カ国に含まれるので、BRICSの表からは除外してある。

(出所：World Tourism Organization)

表Ⅱ－２ 世界遺産の地域別分布 2012年

地域	文化遺産	自然遺産	複合遺産	計
アフリカ	47	35	4	86
アラブ諸国	67	4	2	73
アジア・太平洋	148	55	10	213
ヨーロッパと北アメリカ	393	59	10	462
ラテンアメリカとカリブ海	90	35	3	128
計	745	188	29	962

(出所：UNESCO)

Ⅲ 次の文を読み、問いに答えなさい。

なお、中国の地名を解答する場合は、日本語の漢字、中国語現地読みのカタカナのいずれかとする。

未開の土地は、都市計画家に、自己の理想を現実の建造環境として地表に刻み付けるための、またとない白紙のキャンバスを提供する。首都移転、^①近郊の原野の都市化、植民地での都市建設などが、その例である。これらは自然発生型都市との対比で、【 ア 】都市と呼ばれる。

都市計画の重要な要素として、街路形態がある。街路形態のデザインは、建築や絵画などと同じく、空間的に伝播し、また時間的に後の世代に受け継がれる。

日本では、古く中国の長安から学んだ【 イ 】型の街路形態で都市が伝統的に計画されてきた。^②だが欧州では、ルネサンスに端を発し、都市軸を明確にして遠近法を都市景観に導入した、図Ⅲ—1に示すようなバロック様式の放射環状型街路形態^③が、18～19世紀にかけ、絶対王政の権力などの手によって、欧州の新都市やその覇権下にあった植民都市に建設されるようになった。

この街路形態は、西欧に憧憬を抱く帝政ロシアに受容されて、ロシアが拠点として設けたアジア各地の植民都市の計画に採用された。三国干渉のあとロシアが植民地とした、中国の【 ウ 】半島先端の都市ダーリニー^④でも、図Ⅲ—2に示すとおり、放射環状型の街路形態が都市計画に採用された。

日露戦争の結果、この都市とともに長春以南の鉄道を南満洲鉄道(満鉄)としてロシアから獲得した日本は、戦争直後から、日本が治外法権を有した、奉天、長春など満鉄主要駅前の「満鉄附属地」で、図Ⅲ—3に示す、【 エ 】型の特徴ある街路形態をもつ都市を建設した。

このようなデザインの都市が満鉄附属地に計画された理由として、第一に、日本の伝統的な街路形態と、ロシアから学んだ放射型街路形態との融合が図られたことが考えられる。第二に、明治期以降、日本の都市中心は、欧州が広場であるのに対して【 オ 】であり、とりわけ満鉄附属地では都市計画における鉄道の位置づけが決定的であったため、……………。^⑤

関東大震災直後、中央本線沿線の武蔵野の原野に図Ⅲ—4のように計画された都

市国立は、ドイツのゲッチンゲンになった【カ】都市とされるが、ゲッチンゲンの街路形態は図Ⅲ—5に示すもので、国立の街路形態としては、……に最も近い⑥デザインが採用された。その背景として、当時、欧米最新の都市計画の導入を唱えて東京市の震災復興を力強く推進した後藤新平のそれまでの植民地における経歴などが、興味深い示唆を提供している。

街路形態は建造物以上に強い持続性をもつ。都市が計画され建設された時代の【キ】は、日本でも中国でも、そしてソ連から独立した諸国の都市でも、その街路形態に今日まで刻まれ続けている。

問 1 ア～キの空欄に、適切な語を入れなさい。ただし、イとエには都市街路形態の名称、ウには地名が入る。解答は、解答欄の第1～3行に、空欄記号とともに記しなさい。

問 2 ①に該当する新しく建設された都市名を、アジアと南米について、それぞれ1つずつ挙げなさい。採用されている街路形態は問わない。解答は、解答欄の第4行に記しなさい。

問 3 日本国内にある、②に該当する中世以前に建設された代表的都市を2つ、および同様の街路形態をもつ明治以降に計画・建設された都市を2つ挙げ、それぞれの現代における地名を書きなさい。解答は、「中世以前」、「明治以降」の順に各別にまとめ、解答欄の第5行に記しなさい。

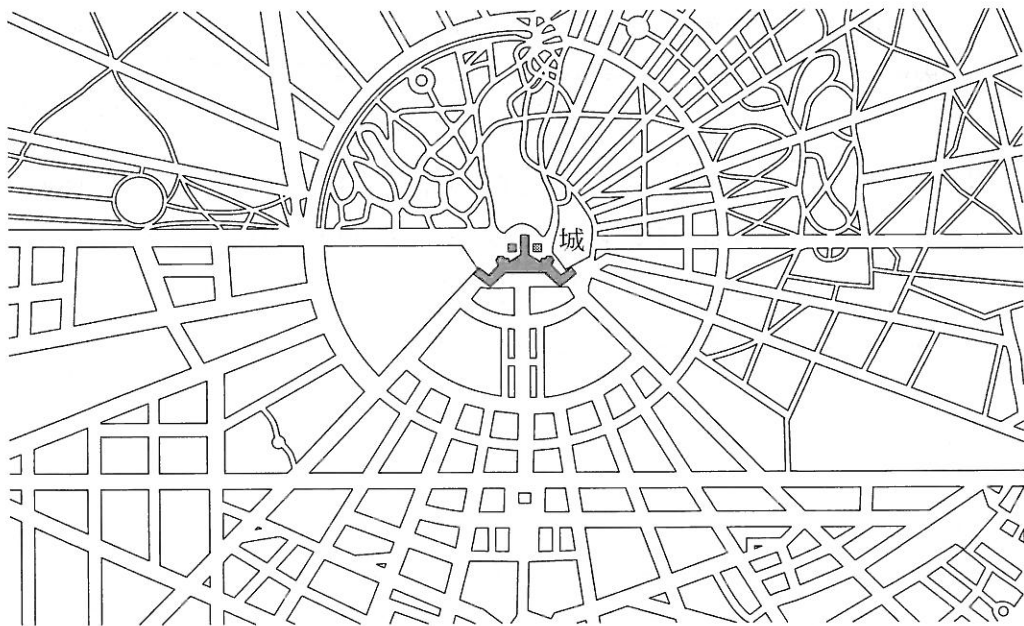
問 4 図Ⅲ—1の都市は、ドイツ西南部にあり、同国の司法における「首都」となっている。その地名を解答欄の第6行に記しなさい。

問 5 ④の、現在の中国における都市名を、解答欄の第7行に記しなさい。

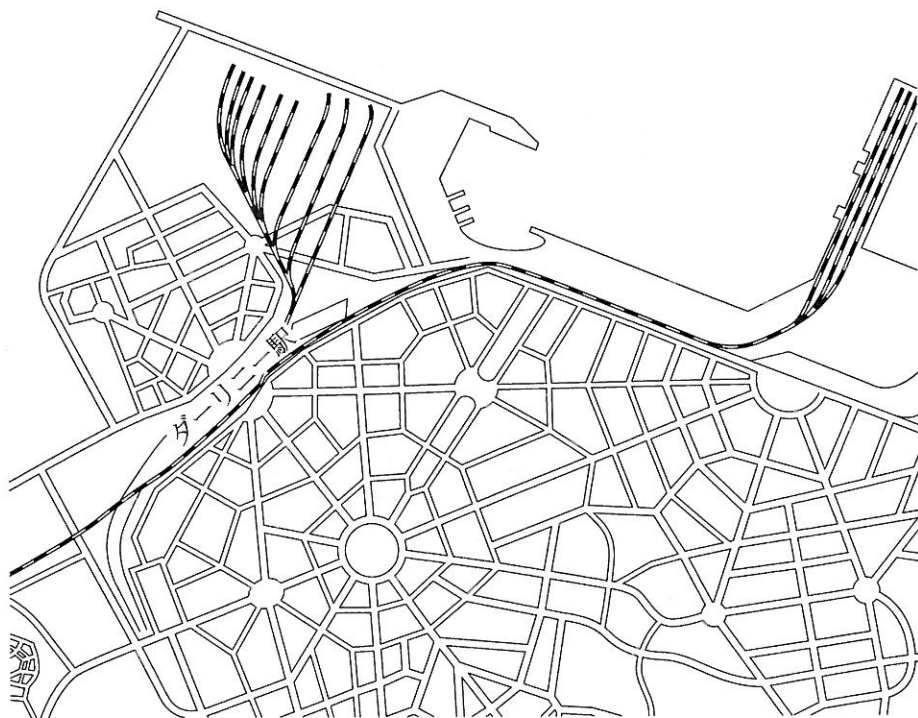
問 6 満鉄附属地において図Ⅲ—3に示すような街路形態が採用された第二の理由を考へて、⑤の文章を完成させ、解答欄の第8～9行に記しなさい。(50字以内)

問 7 図Ⅲ—4に示す国立^{くにたち}の街路形態と最も相同な街路形態をもつ都市を、図Ⅲ—1、図Ⅲ—3、図Ⅲ—5の中から1つ選び、その現代における地名で⑥を埋めて文章を完成させなさい。「図Ⅲ—x」と図の記号だけ書くのは正答とみなさない。解答は、解答欄の第10行に記しなさい。

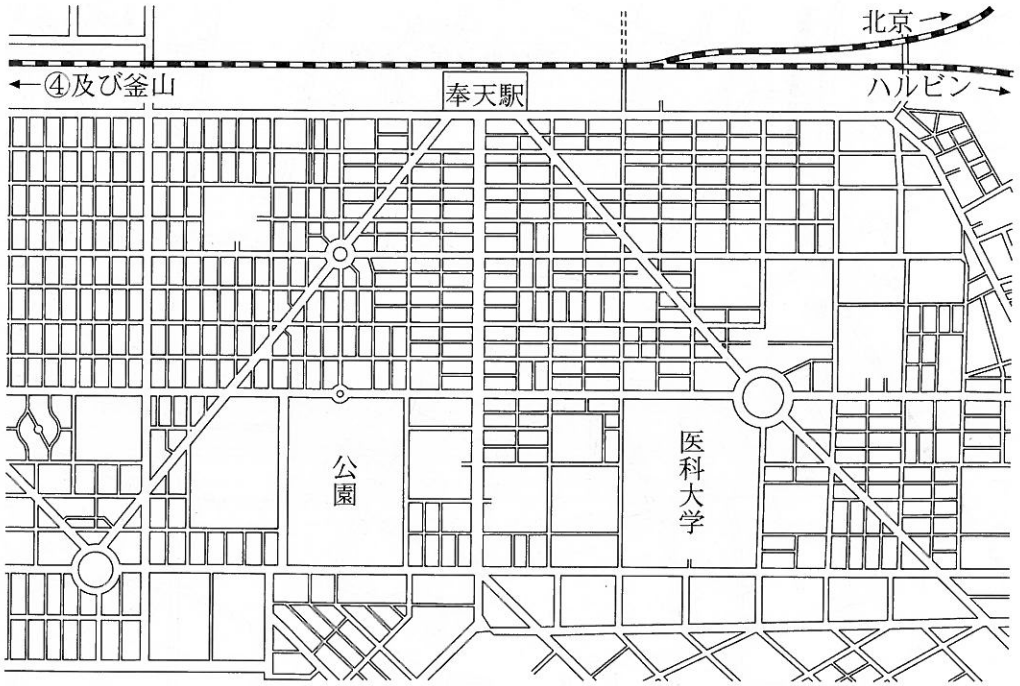
图III—1



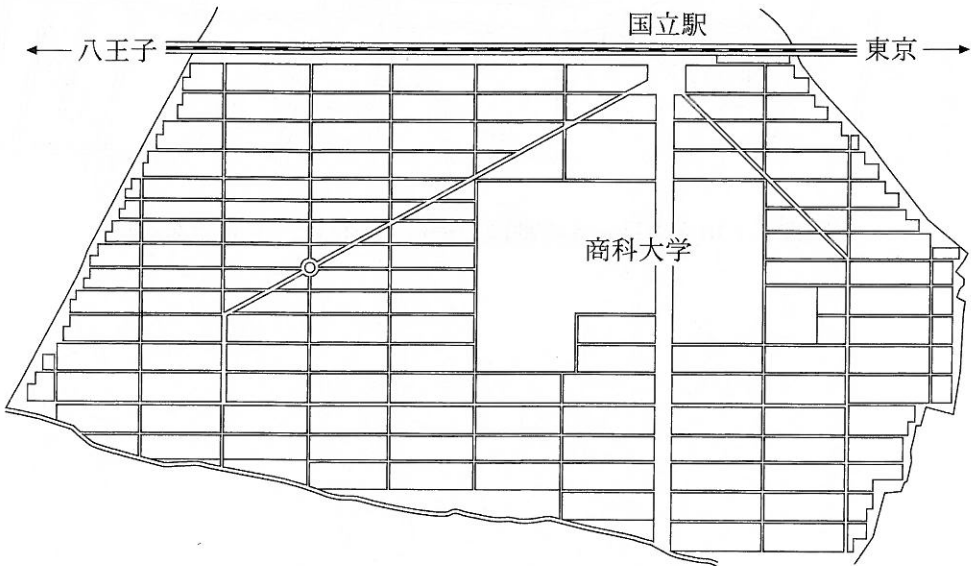
图III—2



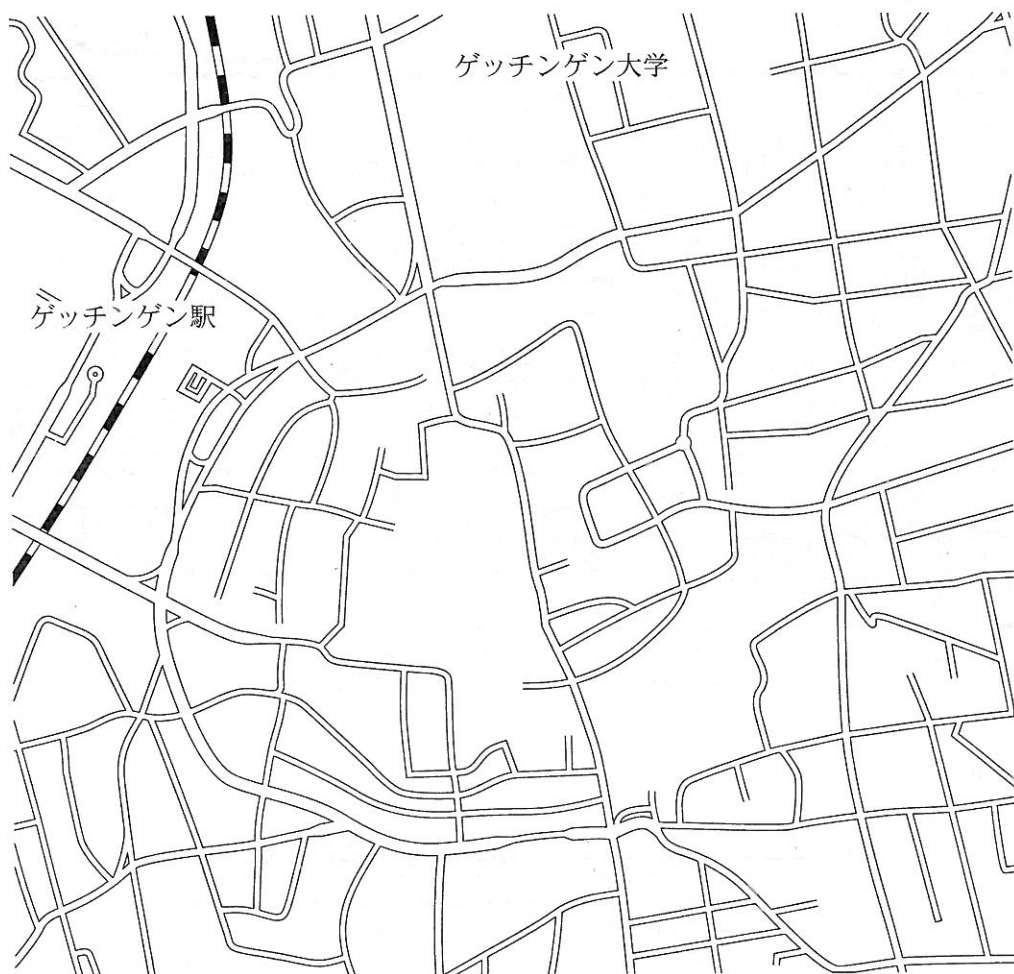
図III-3



図III-4



図Ⅲ—5



(図Ⅲ—1 から図Ⅲ—5 の地図の縮尺・方位は、不同である)